



平成 21 年 1 月 14 日

各 位

会社名 三光ソフランホールディングス株式会社
代表者の役職氏名 代表取締役社長 高橋 誠一
(コード番号 1729 大阪証券取引所
〈ヘラクレス市場〉)
問い合わせ先 執行役員経営企画室長 有保 誠
TEL 048-669-1300

特別損失の発生及び業績予想の修正並びに役員報酬の減額等に関するお知らせ

特別損失の発生及び最近の業績の動向を踏まえ、平成 20 年 10 月 14 日の決算発表時に公表いたしました平成 21 年 8 月期（平成 20 年 9 月 1 日～平成 21 年 8 月 31 日）の第 2 四半期、通期の業績予想（連結・個別）の修正及び役員報酬の減額を決議いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及び内容

平成 21 年 8 月期第 1 四半期の連結業績において、特別損失として販売用不動産評価損 1 億 83 百万円、投資有価証券評価損 2 億 39 百万円を計上いたしました。

2. 平成 21 年 8 月期第 2 四半期 業績予想数値の修正（平成 20 年 9 月 1 日～平成 21 年 2 月 28 日）

(1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	14,500	800	750	430	円 銭 7.24
今回修正予想 (B)	13,000	350	200	△80	△1.35
増減額 (B - A)	△1,500	△450	△550	△510	—
増減率	△10.3%	△56.3%	△73.3%	—	—
前期実績 (平成 20 年 8 月期第 2 四半期)	11,664	412	12	△380	△6.28

(2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	500	300	300	200	円 銭 3.37
今回修正予想 (B)	296	56	60	25	0.42
増減額 (B - A)	△204	△244	△240	△175	—
増減率	△40.8%	△81.3%	△80.0%	△87.5%	—
前期実績 (平成20年8月期第2四半期)	5,025	198	△404	△523	△8.65

3. 平成21年8月期 業績予想数値の修正 (平成20年9月1日～平成21年8月31日)

(1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	32,000	1,700	1,600	900	円 銭 15.16
今回修正予想 (B)	26,800	750	650	70	1.18
増減額 (B - A)	△5,200	△950	△950	△830	—
増減率	△16.3%	△55.9%	△59.4%	△92.2%	—
前期実績 (平成20年8月期)	24,046	953	652	△2,179	△36.35

(2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,000	600	600	400	円 銭 6.74
今回修正予想 (B)	576	96	120	40	0.67
増減額 (B - A)	△424	△504	△480	△360	—
増減率	△42.4%	△84.0%	△80.0%	△90.0%	—
前期実績 (平成20年8月期)	7,416	333	△1,786	△1,994	△33.27

当社は平成20年6月1日より持株会社に移行し、連結ベースでのグループにおける経営管理を行っております。そのため、平成21年8月期の個別業績予想は純粋持株会社としてのものでありますが、平成20年8月期の個別業績には会社分割前の三光ソフラン株式会社における建設業・不動産業等各種事業による業績が含まれております。

4. 修正の理由

(1) 連結業績予想

現在の世界的な金融不安を背景に建設・不動産関係業界の先行きは不透明であり、個人消費者の戸建住宅や投資用マンションの不動産購入意欲も激減していることから、今後長期にわたりこの状況が継続すると考えております。また、貸貸市場におきましても、個人消費者の住居借り換え意欲の減退がみられ、法人でも経費削減等からの解約もあり、空室が目立ってきております。

このような環境下の中、当社グループでも個人及び法人の不動産の買い控え、金融機関の不動産融資が厳格化されこと等に起因して不動産の販売が減少しており、在庫不動産の売却を押し進めるために不動産の販売価格の見直しを行うなど積極的に売却を進めてまいりました。しかしながら、依然として原材料が高値で推移していること、当初計画より不動産販売が落ち込んだこと等から売上高及び利益が当初計画を下回る結果となりました。また、上記「特別損失の発生及び内容」で記載のとおり、不動産市況及び株式市況等の低迷を背景に、平成21年8月第1四半期で特別損失として販売用不動産評価損と投資有価証券評価損を計上いたしました。

この結果、平成21年8月期第1四半期の業績が当初計画を大きく下回る結果となり、建設不動産市況も当面の間回復見込みがなく厳しい状態が続くと考えられます。

このような状況を考慮した結果、前回公表時の予想数値を修正することにいたしました。

尚、介護事業におきましては、当初の計画とおりに順調に推移しております。

(2) 個別業績予想

個別の売上は子会社からの経営指導料、業務受託料及び配当金収入が主なものとなります。上記に記載いたしましたが、子会社の事業環境が当面好転しない見込みであることから、子会社から收受できる配当金収入が当初の見込みを下回ると考えたためであります。

5. 経営の安定化に向けて

現況を真摯に受け止め、以下の基本方針に基づき、安定的な収益確保を図ってまいります。

(1) 役員報酬の減額

平成21年8月期の大幅な業績修正の経営責任を明確にするため、以下のとおり平成21年2月より相当の期間において、取締役報酬の減額を実施いたします。

○ 報酬減額の内容

■ 当社（三光ソフランホールディングス株式会社）

取締役 月額報酬の20%を減額

■ 事業会社（三光ソフラン株式会社）

取締役 月額報酬の20%を減額

※上記事業会社は当社の100%子会社であります。

(2) コスト削減について

- グループ各社との連携を強化し情報を共有化することにより、ローコストオペレーションを徹底する。
- 出店計画の見直し、支店廃止等の規模縮小を行うことにより賃借料の大幅な削減に努めるとともに、人員を集中させ業務の効率化を図る。
- 収益力に合致した適正な組織体制の見直しを図るため、人員の整理を実施し効率的な経営を目指す。

以上